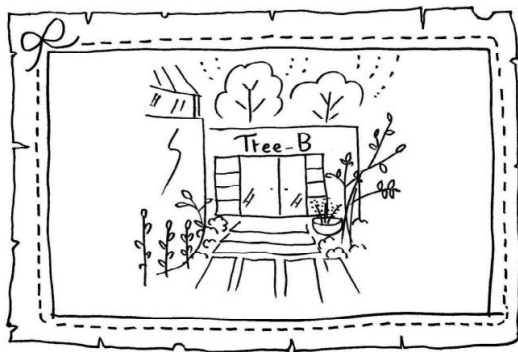


Get Creative and Save Money with DIY

懐かき未来

その1 国府台Tree-Bと
不思議な家族の冒険



青空工房

たずさんが作った「リネンのプルオーバー」



今回のテーママ市川国府台の雑貨カフェ
Tree-Bはオーナーの星淳子さんが、
ご主人の建築家星哲郎さんやお子さ
んたちと、家族全員で協力して作っ
た不思議な空間です。
この写真はTree-Bでしか買えない
たずさん手作りのプルオーバーです。
ふつつのお母さんだったたずさんは
Tree-Bに触発されて創作意欲に目覚め
てしまったのかもしれない。

CONTENTS

- 1 シリーズ「懐かしき未来」へようこそ
 - 3 幸せはおうちのご近所で
 - 5 〈インタビュー1〉
最初はあんなにやるつもりじゃなかったの
 - 11 週末文筆家、路上にて不思議な家族に会う
 - 19 〈インタビュー2〉
お店を始めて笑顔が増えた。
 - 22 Tree-Bの10年
 - 26 Tree-Bで作った国府台ご近所さん地図
 - 27 週末雑貨屋のカウンターから
- 編集後記

シリーズ 懐かしき未来」へようこそ

例えば明治生まれのウチのおじいちゃんが元気だった昭和のころまで、近所の棟梁が茶飲み話にやって来て、住まいをどんな風にいじろうかなんて、縁側であれこれ相談するコトって、当たり前前の日常風景だったような気がします。

そこには商品として住宅を買うのではなく、今風に言うと、プロとコラボしながら、時には自ら手を動かして、住まいを作る庶民の暮らしがありました。

ところが、ふと気づくと近所の棟梁の姿は消え、住宅展示場でスーツ姿の営業マンから 皆さん、こういったタイプをお好みです」などと説明され「ふむふむ」とうなずきながら、何もわかっていないボクがいました。

このままじゃまずい。天国からおじいちゃんにカミナリを落とさせます。

自分で出来ることは、自分の手でやってみようと考え、建築家に設計を依頼し、家族や友人の協力を得て、二三年前からDIY作業で山小屋を作り続けています。

インターネットが普及していなかった二五年前の当時と比べて、ボクたちの生活は大きく変わりました。

住まいのことだけでなく、食生活や教育、そして仕事や家族のあり方など生活全般にわたって、これからさらに変化してゆくでしょう。

未来の社会って、いつけん不確実なモノに思えます。

けれども、視点を変えてみると、江戸期から昭和の中頃、約五〇年前まで続いた庶民の暮らし方が、ボクには幸せのお手本に思えてならないのです。

経済が成長して、お金持ちになれば幸せになれると思って、この五〇年間、一所懸命仕事した結果、日本のGDPは大きくなりました。

その一方で失ったモノの大きさにあぜんとしません。

生活に密着した日本固有の技術や習慣が消えてゆき、グローバルズムという名を借りて、暮らしの細部にまで市場経済化が及んでいます。

それでも、目を凝らして見ると、グローバルズムの嵐が吹き荒れた寒々とした風景の中、日本の各地で希望が芽生えていることに気づきました。

お父さんの日曜大工といったイメージがあったDIY作業が、女性の間で大流行していることなど、その好例かもしれません。

毛利嘉孝という人が お金を使わないこと ― 商品が支配する世界に従属しないことがDIYの精神なのです」と書いています。

そしてボクの周囲にも まずは、じぶんでやってみよう」と次の時代の暮らし方を始めている人たちがいます。

シリーズ「懐かしき未来」は、そんな未来人たちとの出会いの記録です。

編集人 石井 一彦

(週末文筆家)